

(実践報告)

ビジュアル単元履歴を活用した授業省察の試み（第二報） —小学3年「跳び箱運動」の実践より—

鈴木 一成* 相羽 亮介**

*保健体育講座

**尾張旭市立城山小学校

The Challenge of Lesson Reflection using Unit Learning History Centered on Photos and Children's Impressions(2nd report) —Physical Education Class "Vaulting Box Activities" in Grade 3—

Kazunari SUZUKI*, Ryosuke AIBA**

* Department of Health and Physical Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

** Shiroyama Elementary School Owariasahi 488-0884, Japan

Keywords : 体育 授業省察 単元履歴

I はじめに

本研究は、教師の「教え方」に関心をよせた「効果の原因と結果（因果）の解明」による「技術的実践の授業分析」¹⁾ではなく、子どもの「学び」に関心をよせた「経験の意味と関係（因縁）の解明」による「反省的実践の授業研究」¹⁾を目指し、小学校第3学年の体育科実践におけるビジュアル単元履歴を活用した授業省察の試みを報告した前報²⁾に続くものである。前報では陸上運動系の「跳ぶ運動」の実践報告であったが、本研究では器械運動系の「跳び箱運動」の実践報告とする。そして、前報では及ばなかった「教材化を教材にする」³⁾ことを取り上げていきたい。その理由について、少し長いが引用する。

『たしかに学習指導要領の解説書や市販の技術指導書等には数多くの「教材化された教材」が紹介されており、その指導法等も解説されている。しかしこれらは教材された「結果」であり、そこに教材化の理由や根拠、あるいはそれに取り組んだ子どもたちの実態等が述べられているわけではない。また執筆者の側からいえば、これらは適用される子どもたちの実態に応じて〈さらに教材化〉されることが望ましいと考えられているものでもある。しかし多くの場合、それぞれの教師によって〈さらに教材化〉されることは少なく、これが体育実践を低調させる重要な一因ともなっている。』⁴⁾

前報のビジュアル単元履歴は、「教材化された教材」の借用ではなく、仮に百歩譲ってそうだとした場合、授業の実践は常に唯一無二になっていくものである。それを写真で残すビジュアル単元履歴は、授業にも個性があることを示している。その履歴は、教師と子どもたちが積極的に教材化した結果といえる。教材化は教師だけによって行われればよいというものではなく、子

どもたちもまたこれに積極的に加わることによって、教材化という作業それ自身が学習活動となる。⁵⁾つまり、ビジュアル単元履歴は、「教材化を教材にする」ことを描くものである。

では、ビジュアル単元履歴は、教師の力量形成に資するといえるのだろうか。専門家としての学びにおける3つの基本原理がある⁶⁾。

1. 教師の専門家としての学びは、学習者の内的な必要性を伴うとより効果的になる。
2. 教師の専門家としての学びは、学習者の経験に根ざすとより効果的になる。
3. 教師の専門家としての学びは、学習者が自身の経験を省察するとより効果的になる。

この3の原理については、先入観が潜在化しやすいといわれる⁶⁾。だからこそ、運動が学びの対象となる体育授業において、教師や子どもたちの潜在化した先入観を明らかにしておくことが求められる。民放等の20段を越える跳び箱をモンスターと称して跳び越す競技や高さを誇るギネス世界記録は、すでに学習に入る前に、教師も子どもたちも跳び箱は高さを競うものという先入観をもっている場合は少なくないと考えられる。そこで本研究では先入観に着目して、跳び箱運動における「教材化を教材にする」ことを検討する。

II 実践の報告

1 実践の概要

本実践は、S小学校第3学年の体育科「器械運動（跳び箱運動）」である。2022年12月に実施した。年間指導計画をふまえて、6時間扱いとした。

単元目標は「器械運動（跳び箱運動）」の前段階に位置づく「器械・器具を使った運動遊び（跳び箱を使った運動遊び）」との関連性を考慮した。小学校学習

指導要領及び解説に示す指導内容は2学年で構成されている。そのため、各学校の実態に応じることができ、いかに学びの連続性を保障するかが鍵となる。そこで、本実践では第3学年と第4学年は短絡的に同一授業内容とするのではなく、発達段階及び学習履歴を考慮すると、第3学年は第2学年の「器械・器具跳の運動遊び」の学びを基軸にしていくことが子どもにとっては学習履歴がつながりやすくなると考えた。

また、本実践は、技の習得を目指す教師主導の技術指導を中心とするのではなく、子どもたちの動きの探究を中心としたいと考えた。そこで、見本となる技の提示及びその見本にできるだけ近づけるための練習と出来栄え評価という「見本・練習・出来栄え評価」という指導過程ではなく、学びの主題を設定し、その主題に迫るための探究とその表現という「主題・探究・表現」という学習過程となるようにした。

なお、単元構成は、同じ授業内で回転系と切り返し系の両方を指導する場合、回転系を先に取り上げると、切り返し系の学習の際に回転感覚が残っていて事故につながる可能性があるから、切り返し系を先に取り上げるようにした⁷⁾。

前報では「導入が学習を方向づける」ことを検討した²⁾。そこで第1時では「跳び箱で一番むずかしいのは何段？」とする主題を準備した。第2時「おしりをあげて、手よりも前に着地しよう」及び第3時は指導資料^{8) 9)}を参考にした。第4・5時は回転系の探究課題とした。第6時は第1・2・3時の切り返し系、第4・5の回転系のそれぞれの探究課題になるように構成した。いずれの学習活動に際しては、試行することを尊重して、「やってみて・広げる」と「やってみて・深める」という学習過程を念頭に置き、実践した。

授業者は授業中に子どもたちの学習状況を随時、撮影したり、授業終盤で子どもたちの感想文を書かせたりした。これらの資料を授業後に、一覧表の列に整理した。単元をひとまとまりとして構成する一覧表であるため、毎時の列は情報量が制限される。そのため、授業者は、子どもの学習状況をより鮮明に思い出しながら、印象的な授業場面を想起する写真を選ぶことになる。また、これらの写真は、単元を通しての子どもたちの学習状況を把握することにもなる。さらに、他の授業者が追試及び授業計画の際には、具体的な子どもたちの学習状況から考案できることに期待できる。特に、次年度の担任する授業者にとっては、子どもたちの系統的な学びをふまえることができ、有益な情報となると考える。なお、本研究のビジュアル単元履歴の作成においては学校長及び保護者の許可を得る等、個人情報保護に配慮した。

2 ビジュアル単元履歴

表1はビジュアル単元履歴①である。これは「めあて」「発問」「学習活動」「評価」の4項目に整理したものである。学習活動では授業実践での写真と授業中の印象的な子どもたちの学習状況やつぶやき等を吹き出しに添えた。

表2はビジュアル単元履歴②である。これは「めあて」「活動」「振り返り」の3項目で整理したものである。毎時の子どもの感想文を添えて、子どもたちの学びを履歴の中心とした。

3 ビジュアル単元履歴を活用した授業省察

(1) 先入観の外在化と意外性

第1時の写真では、四つん這い歩き(表1の第1時の一番上の写真)と0段チャレンジ(表1の第1時の上から4枚目)は、いずれも頭よりも腰の位置が高く、腕支持及び肘支持での跳躍が必須となる。立位及びしゃがみ姿勢から床やマット1枚への着手は、落差がある。さらに、回転方向を切り返す動きが求められる。ところが跳び箱の段数が高くなると落差は少なくなる。つまり、切り返しの動きは、落差が最大となる跳び箱0段が最も負荷が大きいことになる。しかし、子どもたちの感想には、第1時では「跳び箱は、高い方がかんたんなんだと思いました」や「最初はつまらないと思ったけど、高く跳べる方がかんたんとわかってビックリしました」とある。つまり、高い段は難易度が高いという先入観があり、それを適切な「四つん這い歩き」「かえる跳び(手よりも前)」「足打ちかえる跳び」「0段チャレンジ」「1段チャレンジ」の教材群が、内在化していた先入観を外在化させたといえる。「どうして小さい段の方がむずかしいのか気になります。ぜんぜん跳べなかったです」という感想は、知的好奇心の現れでもあるといえる。

(2) 「やってみる」という態度形成と教材化

第1時のふり返りでは「段があるよりも、ただのマットの方がむずかしいということがやってみてわかりました」「やってみたら、高く跳ぶのは別にすごいことではないんだとわかりました」とある。前報に引き続き、本実践においても「やってみることを尊重するという学習態度の形成の一助になっていると考える。これは、運動世界に入る前に熟慮するのではなく、運動の中に身を置き、運動とのかかわりの中から学ぼうとすることは、試行の優先化といえる。ここにも「めあて」が探究テーマとなり、「発問」がその具体化を担っている。たしかに「教材化された教材」が授業前に準備されている。しかし、子どもたちと教師が切り返し系や回転系のもつ面白さを探究するプロセスが、「教材化を教材にする」ことになっていたと考える。また、第4時の感想には、「マットの跳び箱？の上で前回りをしたらやわらかいから楽しかった。」「寒いのに汗だくだよ…。つかれた。グー跳びどうやるの？あと頭だけ？手はパツとなっていると思うんだけど。」「跳び箱の上で前転ができました。次は側転もやってみたいです。」とある。「台上前転」という技名ではなく「マットの跳び箱」「跳ぶ箱の上で前転」としている。「開脚跳び」という技名ではなく「パー跳び」,「かかえ込み跳び」では「グー跳び」としている。ここにも今できる動きから始める地平線に立つことで、「教材化を教材にする」ことが実現できていると考える。

(3) 物語の再編化

第2時の感想には「長い跳び箱を跳べてうれしかったです。自分が跳べるなんてビックリしました。」「かえるで向こう側までいくのが4回でいけてうれしかったです。」とある。「教材化を教材にする」ということは、子どもたちにとって先入観で束縛してきた跳び箱運動との物語を再編する契機がある。つまり、「跳び箱運動においては自分が跳べるなんてない」という物語である。しかし、子どもたちが教師と共に「教材化を教材にする」ことは、「自分が跳べる物語」へと再編することができる。ビジュアル単元履歴

表1 ビジュアル単元履歴①

	①	②	③	④	⑤	⑥
めあて	跳び箱で一番むずかしいのは何段？	おしりをあげて、手よりも前に着地しよう	ひざをのばして跳ぶとどんな跳び方になるかな？	跳び箱の上で回ってみよう	跳び箱の上で回って跳んでみよう	いろいろな跳び方で跳び箱を楽しもう
発問	跳び箱で一番むずかしいのは何段？ 台がある時とない時では、どちらが跳びやすかった？	あっち側までできる限り少ない回数で行くためには、どうしたらいいかな？	ひざをのばして跳ぶためにはどうしたらいいかな？	まずは台の上から落ちる練習をしてみよう。次にマットの上で回ってみよう。	あごを下げると体はどうなる？ あごを上げると体はどうなる？	これまで練習した技にチャレンジして跳び箱を楽しもう。
学 習 活 動	 <p>手をついて歩いてみよう。おしりを跳より高くあげることが大切だよ。</p> <p>かえる跳びをしてみよう。手よりも前に着地できるかな？</p>	 <p>おしりを高くあげてもこわくなくてきだよ。足を前に出すぞ。</p> <p>あっち側まで何回のジャンプでいけるかな？体をおこすようにすると…</p>	 <p>ひざをのばすと手よりも前に着地をするのがむずかしいかな～。</p> <p>おしりを高くあげれば、ひざをのばしても手よりも前に着地できる！</p>	 <p>踏み切りでしっかり跳べるようになってきから重ねても跳べる！</p> <p>まずは台の上から回って落ちる練習。こわかったけど、楽しかったよ。</p>	 <p>おしりを高くひざをのばす！もう少しでチョキ跳びができるかも？</p> <p>台上前転の次は跳はね跳び。まずはやわらかいマットの上で練習。</p>	 <p>やっぱり、O段を跳ぶのがむずかしかったな。連続跳びもおもしろい。</p> <p>何回も何回も練習したらチョキ跳びができた。やったね！</p>
	 <p>かえる跳びをするように1段を跳んでみよう。O段とくらべると…？</p>	 <p>足を前に出すことができれば、体は起きて着地もしっかりできるね。</p>	 <p>グー跳びにチャレンジ。マットがあれば落ちてもこわくないから安心。</p>	 <p>マットを重ねて台上前転。落ちる練習もしたからだいじょうぶ！</p>	 <p>マットでやったあごを上げて背中を反るところがポイントだね。</p>	 <p>O段が跳べたら8段もかんたん！今まで跳び箱でできなかったのに！</p>
	 <p>O段（ゆか）の方がむずかしい。跳び箱はひくい方がむずかしい！</p>	 <p>跳び箱をくっつけて長くしたけど、足を前に出せるから跳べた！</p>	 <p>ちょっとこわかったけど、パー跳びと同じようにすれば跳べるね。</p>	 <p>台の上でもしっかり回れたよ。横にマットがあるから落ちても安心。</p>	 <p>側方側立回転跳びもやってみた。跳ぶ時に横を向くのがむずかしい。</p>	 <p>おまけの側方側立回転跳び！こんな跳び方できるなんて信じられない。</p>
評価	O安全に気をつけて準備をしたり、友だちと協力して活動したりできた。（知・技） O O段と1段のどちらがむずかしいか考えることができた。（思・判・表）	Oおしりを高く上げて、手よりも前に着地することができた。（知・技） O少ない回数で反対側までいく方法を考えることができた。（思・判・表） O跳び方を工夫して、粘り強くチャレンジすることができた。（主体的）	Oひざを曲げたり伸ばしたりして跳び箱を跳ぶことができた。（知・技） O切り返しができた時とできない時のちがいを考えることができた。（思・判・表） O跳び方を工夫して、粘り強くチャレンジすることができた。（主体的）	Oマットの上や台の上で前転をすることができた。（知・技） Oあごをひいて体をまるめることを意識することができた。（思・判・表） O跳び方を工夫して、粘り強くチャレンジすることができた。（主体的）	Oマットの上や台の上で前転をすることができた。（知・技） O体を丸めたり、戻ったりする時のちがいを考えることができた。（思・判・表） O跳び方を工夫して、粘り強くチャレンジすることができた。（主体的）	Oいろいろな跳び方で跳び箱を跳ぶことができた。（知・技） O技に合わせて体の動かし方を考えて跳ぶことができた。（思・判・表） O自分の跳び方を振り返って、いろいろな跳び方で跳び箱を楽しめた（主体的）

表2 ビジュアル単元履歴②

	①	②	③	④	⑤	⑥
めあて	跳び箱で一番むずかしいのは何段？	おしりをあげて、手よりも前に着地しよう	ひざをのばして跳ぶとどんな跳び方になるかな？	跳び箱の上で回ってみよう	跳び箱の上で回って跳んでみよう	いろいろな跳び方で跳び箱を楽しもう
活動	<ul style="list-style-type: none"> ・四つん這い歩き ・かえる跳び（手よりも前） ・足打ちかえる跳び ・0段チャレンジ ・1段チャレンジ 	<ul style="list-style-type: none"> ・かえる跳び（手よりも前） ・あっち側まで何回？ ・0段チャレンジ ・1段～2段（たて・よこ） ・0段連続跳び 	<ul style="list-style-type: none"> ・かえる跳び（手よりも前） ・あっち側まで何回？ ・0段チャレンジ ・0段連続跳び ・5段チャレンジ ・グー跳び、パー跳び 	<ul style="list-style-type: none"> ・かえる跳び（手よりも前） ・パー跳び、グー、チョキ跳び ・0段連続跳び ・台下前転（舞台の上から） ・マット台上前転 ・台上前転 	<ul style="list-style-type: none"> ・かえる跳び（手よりも前） ・パー跳び、グー、チョキ跳び ・0段連続跳び ・台上前転 ・頭はね跳び（マット） ・頭はね跳び（跳び箱） 	<ul style="list-style-type: none"> ・かえる跳び（手よりも前） ・パー跳び、グー、チョキ跳び ・0段連続跳び ・8段チャレンジ ・台上前転 ・頭はね跳び
振り返り	<p>・跳び箱は、高い方がかんたんなんだと思いました。</p> <p>・段があるよりも、ただのマットの方がむずかしいということがやってみてわかりました。</p> <p>・やってみたら、高く跳ぶのは別にすごいことではないんだとわかりました。</p> <p>・安全に気をつけて練習することができました。</p> <p>・最初はつまらないと思ったけど、高く跳べる方がかんたんとわかってビックリしました。</p> <p>・どうしても小さい段の方がむずかしいのが気になります。ぜんぜん跳べなかったです。</p> <p>・かえるみたいなので、頭が地面につきそうでこわかったです。はじめてなのにできてうれしかったです。</p> <p>・「跳ぶ運動」の時のバタフライの手をやったらかえるのやつもいけた。</p> <p>・少しだけ跳べるようになったけど、やっぱりもっと跳べるようになりたいです。</p>	<p>・跳んだときに顔を上げることができなかったけど、次にやってみたらできました。</p> <p>・手よりも前に足をつくのがむずかしかったです。できるようになりました。</p> <p>・長い跳び箱を跳べてうれしかったです。自分が跳べるなんてビックリしました。</p> <p>・きのうよりできるようになりました。今日は0段が跳べました！</p> <p>・跳び箱を跳ぶときは、かえるを意識するといいい。</p> <p>・4段と0段を実際に跳んでみて、本当に0段の方がむずかしかったのでビックリしました。</p> <p>・横よりも縦の方がむずかしかったです。縦は手を前につけばいけると思う。</p> <p>・かえるで向こう側までいくのが4回でいけてうれしかったです。</p> <p>・0段が跳べなかったけど、練習したらできるようになりました。</p>	<p>・グー跳びは跳び箱の上に足がおけるようになればあとは押すだけと言っていたので、やってみたらちょっとこつがわかりました。</p> <p>・グー跳びとパー跳びはとてもむずかしかったです。つまずいてしまうのでむずかしいです。</p> <p>・チョキ跳びをやってみて、自分ではできているのかわからないけどなんとなくできそうでした。</p> <p>・楽しくてきたし、高い方がかんたんということがわかってきました。</p> <p>・やっとな、今日はじめて跳び箱を跳べました。すごうれしかったです。</p> <p>・5段の跳び箱が跳べました。でも、これはすごいことではないってこと…？</p> <p>・チョキ跳びが思ったよりもむずかしい。</p> <p>・今日は急に高い段も出てきたけど、めっちゃかんたんだって。高いから？</p> <p>・グー跳びとパー跳びはむずかしくてできませんでした。できるようになりたいです。</p>	<p>・前回りをするのが楽しかったです。次はもっとできるようになりたいです。</p> <p>・前回りも跳び箱と同じようにはじめに少しジャンプをするのいいとわかりました。</p> <p>・跳び箱を2つなげるのが、ほぼ跳べるようになりました。</p> <p>・何回もやって跳び箱が跳べてすごうれしかったです。やっとな跳べたという気分です。</p> <p>・跳び箱の上で前回りをしたことがなかったから楽しかった。こんな技があるなんてビックリ！</p> <p>・マットの跳び箱？の上で前回りをしたらやわらかいから楽しかった。</p> <p>・寒いのに汗だくだよ…。つかれた。グー跳びどうやるの？あと頭だけ？手はパッとなっていると思うんだけど。</p> <p>・舞台の上からゆかにまわって落ちるのが楽しかったです。</p> <p>・跳び箱の上で前転ができました。次は側転もやってみたいです。</p>	<p>・はね跳びができてよかったです。跳び箱のことがわかってきました。</p> <p>・今日はグー跳びが上手にできて、手も「パッ」ってできたからうれしかったです。</p> <p>・マットの頭はね起きはできたけど、跳び箱でやるとむずかしかったです。</p> <p>・跳び箱で側転ができるようになりました。もっと上手にできるようになりたいです。</p> <p>・はね跳びはできなかったけど、前回は上手にできるようになりました。</p> <p>・頭はね跳びができました。正直言って、ちょっとうれしい。</p> <p>・すごく今日は楽しかった。グー跳びが上手にできた気がする。</p> <p>・何度もやっていたら今までできなかったことができるようになりました。うれしかったです。</p> <p>・はね跳びができてよかったです。背中を反るところがむずかしいので、またやりたいです。</p> <p>・はね跳びはすばやく足をおろしてやると跳べるのがわかりました。</p>	<p>・今日は、はじめて8段を跳ぶことができました。</p> <p>・最初は全然できなかったけど、最後はできるようになりました。</p> <p>・最初は8段なんて跳べないと思っていただけ、勇気を出してやってみたらできました。</p> <p>・8段は、最初は届くかな？って思ったけど意外に大丈夫でした。最後だから、いろんな跳び方にチャレンジしました。</p> <p>・跳び箱8段が跳べてうれしかったです。9段や10段も跳んでみたいです。</p> <p>・8段をはじめて跳べたのですが、全然すごくないとわかりました。</p> <p>・8段があと少しで跳べそうだった。0段がかんたんに思えてきてうれしい。</p> <p>・8段の方がこわいなと思っていただけ、意外とそっちの方がかんたんで0段がむずかしかったです。</p> <p>・跳び箱の上ではね跳びはできてうれしかったです。8段が跳べてよかったです。</p> <p>・やっぱり8段がかんたんで、0段がむずかしかった。</p>



は体育の学びの歩みそのものであり、体育の学びの物語である。それを再編できるということは、決められた教材を授業の中にただ持ち込むことでは実現できない。授業の中で教材化していく中で、物語の編み直しができる。その契機がどこにあるのか、何が変化したのかを振り返ることにも、先入観を対象とする学びがあると考える。

Ⅲ おわりに

本研究では、小学3年「跳び箱運動」の実践よりビジュアル単元履歴を活用した授業省察の試みを報告するとともに、前報では及ばなかった「教材化を教材にする」ことを先入観に着目して検討した。

ビジュアル単元履歴は、子どもたちと教師の学びの足跡である。本研究では、先入観の外在化と意外性、「やってみる」という態度形成と教材化、物語の再編化の3点と検討した。体育授業は「子どもにとっても教師にとっても一生に一回しかないこと（一回性）」「二度と同じことはできないこと（再現不可能性）」「子どもも教師も代わりがきかない、誰とも代えることができない存在であること（固有性・個別性）」という考え方から、これらの3点は教材化過程の標準化や一般化を図ることではなく、教材理解を促進することを図るものである。ビジュアル単元履歴が「教材化を教材にする」体育授業の創出の一助となれば幸いである。

引用・参考文献

- 1) 稲垣忠彦・佐藤学（1996）授業研究入門，岩波書店，pp.118-123.
- 2) 鈴木一成・相羽亮介（2023）ビジュアル単元履歴を活用した授業省察の試み-小学3年「跳の運動」の実践より-，愛知教育大学教職キャリアセンター紀要8，pp.191-195.
- 3) 中村敏雄（1989）教師のための体育教材論，創文企画，pp31-36.
- 4) 上掲書3）p.27.
- 5) 前掲書3）p.32.
- 6) F. コルトハーヘン編著・武田信子監訳（2010）教師教育学-理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ-，学文社，pp.64-66.
- 7) 文部科学省（2015）学校体育実技指導資料第10集 器械運動指導の手引，東洋館出版，p.164.
- 8) 鈴木一成（2020）基本的な技の「安定」と「発展」，楽しい体育の授業第33巻11号，明治図書，pp.45-46.
- 9) 鈴木一成（2022）小中学校体育教授用資料 知っておきたいシリーズ10 跳び箱運動・切り返し系運動教材系統樹，大日本図書.